

## 第1回鎌倉市観光基本計画推進委員会会議録

日時：令和2年（2020年）8月27日（木）9時35分～11時45分

会場：オンライン会議（鎌倉商工会議所 102会議室）

参加者：海津委員、仲田委員、大津委員、藤川委員、榊原委員、渡邊委員、須藤委員、中杉委員

事務局：齋藤市民生活部長、廣川市民生活部次長、秋山観光課係長、柴田職員

---

事務局 定刻となりましたので、  
ただいまから鎌倉市観光基本計画推進委員会を開催いたします。  
私は、本日の司会を務めさせていただきます、市民生活部次長兼観光課長の廣川です。本日は会場設営の都合により現地参加者は会場の映像での参加となります。どうぞよろしく申し上げます。  
会議に先立ちまして、  
市民生活部長の齋藤からご挨拶させていただきます。

---

事務局 皆さまおはようございます。市民生活部長の齋藤です。ご無沙汰しております。本日は御多忙のところ、第1回の観光基本計画推進委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。3月に任期が満了となりました委員の皆様には引き続き委員の就任に御同意をいただき誠にありがとうございます。また、このたび、委員をお引き受けいただきました、神奈川県国際文化観光局観光部観光企画課長の様にも厚く御礼申し上げます。

さて、当委員会では昨年5月から第3期鎌倉市観光基本計画のアクションプランの策定について、ご意見をいただいております。途中2つの個別会議に分かれまして、それぞれ2回ずつの会議で御議論いただきました。3月には事務局でアクションプラン素案の案をまとめまして、コロナウイルス感染防止のため、書面開催の形で皆様にご意見を伺いました。

本日はそのアクションプラン素案を確認していただきまして、委員会としてオーソライズしていただければという段階でございます。リモート会議ということで、何かとご苦勞をお掛けしますが、どうぞよろしく申し上げます。

---

事務局 引き続きまして、本来はここで今期の委員の委嘱式を行うところではありますが、

本日はオンライン会議となりますので、省略させていただきます。委嘱状につきましては別途郵送にてお送りしておりますので、ご確認ください。

それでは、事前にお送りしております会議の資料をご用意ください。

---

---

資料2枚目の委員名簿をご覧ください。

本日、丹羽委員が所用のためご欠席となっております。

また、今回神奈川県国際文化観光局観光部観光企画課の三浦課長がご異動となり、新任の課長にご出席をいただいております。

お手数ですが、各委員の皆さまから簡単に自己紹介をお願いいたします。

自己紹介は、鎌倉市観光基本計画推進委員会委員名簿の順にお願いいたします。

---

各委員 挨拶

---

事務局 ありがとうございます。

また、議事に入る前に申し上げます。委員会につきましては、鎌倉市観光基本計画推進委員会条例施行規則第3条第2項により委員9名中8名のご出席ということで、出席者が過半数に達しておりますので、当委員会は成立していますことをご報告申し上げます。

それでは議題に入らせていただき、議題1、委員長、副委員長の選出に移ります。

条例施行規則第2条で、委員長及び副委員長は、委員の互選によることとされております。

選出について、各委員のご発言をお願いいたします。

ご発言が無いようでしたら、事務局案としまして、

委員長には、計画策定に委員として参画いただき、教授としての豊富な知識を有していらっしゃる海津委員に前期に引き続きお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

---

各委員 異議なしの声

---

事務局 ありがとうございます。それでは海津委員に委員長を務めていただくこととします。

---

委員長 よろしく申し上げます。

---

事務局 次に副委員長の選出に移ります。副委員長もやはり計画策定時に委員として参画いただいた藤川委員か、仲田委員が適任だと考えております。どちらかお引き受けいただけませんかでしょうか。

---

委員 お若い仲田委員にお引き受けいただければありがたいと思いますが、皆さんの御同意をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

---

委員 謹んでお受けします。

---

事務局 ありがとうございます。

それでは、委員長になられた海津委員、副委員長になられた仲田委員におかれては一言ごあいさつをお願いいたします。

---

委員長・ 挨拶

---

---

副委員長

事務局

ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

今後の進行は委員長に行ってくださいますが、その前に本委員会の運営について確認しておきたい事項があります。委員会は委員長が公開は適当でないと判断した場合を除き、公開が原則となります。また、会議録についても同様に原則公開となるため、委員会終了後、各委員に発言内容を確認していただいた後にホームページ等で公開したいと考えております。その際には忌憚の無い議論の妨げとならないよう委員名を伏せた形で記載したいと考えています。本日の議題の内容については特段秘匿するものではありませんので、原則どおり公開とするのが妥当だと事務局は考えておりますが、ご確認をお願いします。

---

委員長

委員の皆さまいかがでしょうか。特に異論が無いようでしたら事務局案でよろしいかと思ひます。

---

事務局

傍聴の取扱いについて提案します。

本委員会があらかじめ、公開となることを想定し、事前に傍聴者の募集を行いましたところ、1人の傍聴希望者がいましたので、入室していただくことにします。傍聴の方、大変お待たせしました。

それでは進行を議長にお渡しします。

---

委員長

では、個別に話すとき以外はミュートしていただくようお願ひします。

ご協力よろしくお願ひいたします。

議題等4ついただひていますが、そのうち1が終わりましたので、(2)の第3期鎌倉市観光基本計画アクションプラン素案についてということで、事務局から説明をお願いします。

---

事務局

皆さまおはようございます。観光課の秋山です。よろしくお願ひいたします。

事務局から説明をさせていただきます。

まず、前回の会議から大分時間が空いてしまいましたので、簡単に昨年度の経過を振り返らせていただきます。

昨年は5月に第2回推進委員会を開催し、本委員会の進め方について、アクションプランの重点施策の策定にあたり、各委員に2つの個別会議に分かれていただき、個別会議ごとに基本計画の目標ごとの重点施策についての意見交換を行い、策定するよう確認を行いました。

8月の第3回推進委員会では平成28年から平成31年度の途中までの観光施策の実施状況の確認と、5月の会議でご承認いただいた個別会議の具体的な実施方法について確認を行い、重点施策の4つの柱についてご確認いただきました。

---

---

その後、9月、10月、11月にそれぞれの個別会議で2回ずつ合計4回の個別会議を実施させていただき、それぞれの重点事業について、コンセプトなどの肉付けを行っていただきました。いただいたご意見等につきましては、適宜中間でご報告を差し上げておりますので、割愛をさせていただきますが、いただいたご意見を元に関係団体の方とも協議を行い、3月に新型コロナウイルスの影響で書面開催とさせていただきましたが、お手元資料1の実施計画の素案としてまとめさせていただきました。

こちらは3月の書面会議の際にお送りしたものに、委員の皆様からのご意見を頂戴し、また昨今のコロナ禍の影響により実施スケジュールに変更を加えたものとなっております。

資料1の4ページをご覧ください。

変更箇所としましては、4ページから13ページの取組一覧表について、一番右の欄に実施主体を記載するよう変更しました。

14ページをご覧ください。ここでは重点施策の趣旨を記載しておりますが、下線部のとおり今年のコロナ禍による影響を記載しております。

事務局としての基本的な考え方は、観光基本計画の4つの目標達成に必要な取り組みとして、実施していく基本的な施策は変わらず実施し、コロナ禍に行うこと、コロナ禍が終息を迎えたときに実施する事及びコロナ禍が終息したあとに実施することに大別して施策を実施していくこととし、今年度実施する新規事業と一部の継続事業を除き、具体的な実施年度の記載を見送る形としました。

15ページをご覧ください。

従来から課題となっていることではございますが、観光業というものはコロナ禍のような緊急事態において非常に強く影響を受ける産業です。

そのため、まだ検討段階ではありますが、今回新たに重点施策として挙げさせていただきました大河ドラマ関連事業において、地域の活性化ができる仕組みづくりを構築し、こういった事態が再度起きた時にも最小限の被害となるよう地域事業者とも連携して取り組んでまいりたいと考えております。

こちらのもう少し詳しいお話は議題終了後にお時間をいただければと思います。

16ページをご覧ください。

体験型・着地型観光の推進については、下線を2箇所記載しており、上段についてはより深い鎌倉を知っていただく必要性という部分を少し追記しております。

下段では、体験型・着地型観光の推進については、ある程度観光客の動き

---

---

をコントロールできるツアー形態がメインとなることから、対応期においても新規感染者数が落ち着いた時期においては実施可能となると考えられるため、その体制づくりについては、令和2年度から推進していきたいと考えております。

17ページをご覧ください。

アクションプランの実施スケジュールについては、事業構築までは今年度進めていくこととしますが、実際の事業実施については今後のコロナ情勢を見守りつつ、実施できるよう進めていくこととします。

18ページをご覧ください。

教育旅行の満足度向上については校外学習おすすめ施設の紹介や学校向け教育旅行のコンサル事業を実施することとしていますが、これらは体制の構築さえできれば、コロナ禍で策定した事業もコロナ終息後にそのまま継続して実施可能であると考えられるため、実施可能なものについては令和2年度から着手したいと考えております。

19ページをご覧ください。

先ほどのとおり令和2年度から着手するところですが、教育旅行のコンサルティングについては、コロナ感染拡大期においては敬遠、中止などの不安要因が大きいため、コロナの感染拡大がある程度収まった時点で実際の事業については着手していきたいと考えております。

20ページをご覧ください。

地域主体の観光地経営実施体制については、もともと検討しておりましたインバウンド特化のDMOを先行して設立し事業展開を行う考えでした。事業展開については今後の見通しが立たないことから、取組事項の整理と組織構成までは対応期に実施し、復興期以降の施策実施に間に合うよう進めていきたいと考えております。

22ページをご覧ください。

泊まる観光の推進については、想定としてインバウンド市場を目標に事業展開を行い、それを国内市場へも展開していくこととしており、昨今の情勢では具体的な広報活動や、事業展開のための予備調査の実施も困難であるため、世界的な新型コロナウイルス感染症の終息が見られてから、消費動向を踏まえ実施するよう考えています。

ここまでの重点施策につきまして、基本計画の目標に対する方向性を確定し、昨年皆様に個別会議などでいただいた具体の取り組みのご意見やご提案につきましては、今後重点事業を実施していく中で、活用させていただき、また今後進捗をご報告していく中で、都度ご意見を頂戴いただけたらと思います。

---

---

事務局からは以上でございます。

委員長        ありがとうございます。コロナによって状況的に足踏みせざるを得ないということで、3月から改定を行っていただいたということだと思います。

      大枠は皆さんにご意見いただいてそれぞれ2回の分科会で4つの指標についてご検討いただいていたもの、そして今回2022年に大河ドラマの放映が決まったということで、それも踏まえてアクションプランにまとめて頂いたということだと思います。多少様子を見るというところで、進捗が止まっている印象になるかもしれませんが、現状としてはこれが妥当だということだと思います。大河ドラマについては先ほど議題の後でということですので、それ以外のところに関連してそれぞれ関心があるところやご意見をいただければと思います。

      オンライン会議は時間厳守が大事ですので、順番に御発言いただくような形を取らせていただきたいと思います。

委員            はい。まったく予期せぬコロナという状況で、不要不急という言葉が出てきましたが、観光は不急ではあるけど不要ではないと感じたところです。鎌倉の立ち位置としては全国の方々、特に関東の方々にとっては大事なところにあると改めて感じました。観光協会の内面も苦しいところですが、厳しい状況の方々もいらっしゃり、何とかしなければいけないという課題もありつつ、前を向いて進めていかなければならない。いま出ている重点施策の中で、コロナを前提とした場合どういうことが出来るか、すべて見直すのは時間がかかりますが、その視点は入れなければいけないと思います。

委員長        ありがとうございます。何かコロナ禍でもできることで、具体的なお提案ありましたら、後ほどでいいのでご提示いただければと思います。

委員            大変な状況の中で、資料をまとめていただきまして、事務局のみなさんありがとうございます。特に重点施策の4のDMOの設立はだいぶ前から取り組んでいて、なかなかうまくいかなかったが、今のうちに体制を整えて、世の中が落ち着いたころに大河ドラマがやってくると、多くの人を訪れる際に受け入れるという形がとれればと思います。

      DMOを悲願としてぜひ取り組んでいただけるとありがたいです。

委員            今回第3期の実施計画が5年を期間として計画されていますが、元の基本計画が10年のうちの5年になったものですが、5年でも長すぎると思います。もう少しタイムリーに動いていかないと観光という生き物を扱っていくのは厳しいと思います。今回このアクションプランを拝見して、大変分かりやすく、ステップが入っていて、ここにもう一つ優先順位が入って整理していただけるとさらにより分かりやすくなるかと思うというのが最初に見た意見です。

---

---

特にこれからアフターコロナという文言で記載されておりますが、現状はウィズコロナで行かざるを得ない。そこに大河ドラマがあったりするが、これは年に数回の会議では全く追いついていかないであろうと思います。仕事量に対しての処理や役割分担を持ってやっていく必要があると思います。

先ほど委員からお話があった通り、飲食業はいま大変苦しい状況ですが、トンネルの先が見えないというわけではなく、かすかな光を求めて可能性をみんなで探り合うのがこの実施計画だと思っています。

もう一つ、サステナブルということが盛んに言われているが、そういう中においても、マイクロツーリズムという言葉が最近星野さんが言っているが、鎌倉でも動き出している。まずはこの辺からスタートしていく、そういうものも確認検証しながら優先順位をつけてやっていきたい。

書類全般に関してですが、コロナが終わってからというものはいくつかあるが、インバウンドに関しては、終わってからでは間に合わないと思います。いまからでも、想定をしてまた、連携していかないと間に合わないかと思う。この辺が肉付けの議論をする部分かと思います。コロナ禍におけるこの会議の立ち位置、さらに実務をやっている方々が参加するラウンドテーブルみたいなものも開催したほうがよい。実際に動かしている方々を我々がどれだけ把握できるかというのも大切だと思います。

---

委員

私の方からは大きく3つのポイントでお話をさせていただきたいと思います。

一つはいまおっしゃっていたように、プロモーション活動開始をポストコロナとして考えていらっしゃるようだが、多くの機関が活動をフリーズしている今の時期が重要だと思っている。観光は競争産業なので、それを常時意識しなければならない。コロナへの対応策が解決の方向に入ったという認識できた時に、すぐ動きだせるように、今こそがその力を蓄える大事な時だと考える。特にインバウンドに関してはイミグレーションのゲートがオープンすると察知したらすぐ動けるようにした方がよい。

また、鎌倉の観光に関わる産業が、コロナが長引くことによって崩壊してしまうことが怖い。そのためには慎重にシミュレーションを行い、できるだけの手当をしながら将来へのビジョンを示さなければならない。

2つ目が、Go to トラベル。いま批判の多い状況にありますが、我々がうまく利用したらどうか。現在は東京が除外されていますが、いずれ入ってきます。鎌倉は東京のマーケットに非常に大きく依存しています。そのためには今からGo to トラベルの時に鎌倉に行きましょう、鎌倉に泊まりましょうという仕掛けをやっていくべきかと思います。また、Go to イートが開始される状況にありますが、この機会に鎌倉の食を前面にだして、Go to のシス

---

---

テムを使って鎌倉の食の楽しみを、交通機関と一緒に展開するように組み立てたらよいと思います。

3つ目が今のプランを見ると、来た方の満足度をどう高めていくかというプログラムはたくさんあります。一方で、マーケットに出て行って「鎌倉に来てください」というマーケティングの分野のプログラムがほとんど存在しない。どうやって市場を作って取り込んでいくかというプログラムにより注力して取り組んだら良いと思います。

どうマーケティングを展開していくかという点では、修学旅行のマーケティングを今すぐ展開したほうが良いのではないのでしょうか。修学旅行というのは決定まで多くの時間を要します。コロナ感染に一応のけじめがついたとしてからでは、更にそこから2年、3年先の修学旅行になってしまう。今からマーケットにアプローチするためのツールを用意しておいて、コロナ騒ぎが収まりかけた時に、鎌倉で修学旅行やりましょうと攻勢をかける。その頃に放映される大河ドラマにマーケティングをシンクロさせて、ホットな教育素材がいま鎌倉にあるというアプローチが効果的に展開できればよいと思います。

コロナの今のタイミングを大切に行動しましょう、Go to を活用しましょう、集客活動の分野にもっと力を入れましょう、皆が立ち止まっている今が大事だと思いますというのが私の意見です。

---

委員

神奈川県では観光振興計画があり、令和元年度から令和3年度までの3年間でやっています。3年度までの計画なので、3年度中に改定をする予定ですが、コロナの影響もあり、前倒して改定したらどうかという話もありましたが、影響が分からない状況なので、令和3年度中の改定と考えています。そのような中で、今回の実施計画については非常に参考になる議論を共有していただいて、ありがたいです。

皆様も話し合いがあったとおり、コロナ禍で観光をどうやって進めていくかということを考えなければいけないと考えています。今回の実施計画にはあまり触れられていませんが、新しい生活様式に沿った新しい観光の在り方を何らかの形で加える必要もあるのでは、例えばワーケーションだとか団体から個人に移行していく観光客への対応だとか。一番大きいのは委員もおっしゃっていたマイクロツーリズムという考え方が鎌倉の観光の在り方にマッチすると思います。鎌倉の観光客は東京や横浜などの近隣から来る方が多いと思うので、マイクロツーリズムという打ち出しをしていくのがいいと思っています。そのほかに重点施策の3の教育旅行についてですが、教育旅行は団体旅行なので、どうやって新しい生活様式にあった形にしていくか。団体旅行でも安全を確保できるから、ぜひ鎌倉にきてくださいという形を生み

---

---

出していただけるのであれば、県としても併せて支援していきたいと思  
います。

重点施策4ですが、これはあとで事務局の方から教えていただければと思  
いますが、いま鎌倉にある宿泊施設のキャパシティがどのくらいあるのか、  
またそういった中でどのくらい宿泊客を増やしていくのか教えていただ  
ければと思います。

大河・オーバーツーリズムについてですが、新しい部署が出来て、ブレー  
キとアクセルを一緒に踏んでいくような担当の名称に見受けられますが、こ  
のコロナ禍の中でかなり人が減ってきていて、新しい風景が出来てきてい  
て、新しい風景をコロナが過ぎたら元に戻すのか、いまの観光客が少ないき  
れいな鎌倉を見せるのか、オーバーツーリズムの問題をどうしていくのかと  
いうのが課題かなと思います。

---

委員 私は中身というよりは進め方についてなのですが、会議から会議の間に状  
況がどんどん変わっていくように思っています。優先順位という話も出てい  
ますが、動きやすいところから動くことが大切なのではないかと思ってい  
ます。以前個別会議の途中に導入した会議で結構進んだと感じたところもあ  
り、個別会議をうまく使いながら進めていけたらと思います。個別会議は結  
構いろいろな意見が出るので、ものによってはそういう状況も見送りとい  
う風に取り組むことも大切だと思いますので、こういったところも皆様とご  
相談しながら進めていけたらと思っています。

---

委員 アクションプランをいただいた段階と皆さんの意見を聞いた段階で、考え  
も少し変わっていますが、私は直に小町にいるので、皆さんの中のイメージ  
と少し違うと思うので、そのあたりを伝えていけたらと思います。観光客が  
少なくなっている一方、客層の変化を感じています。ただ、客層だけに目を  
向けていると少なくなっている観光客をどう増やすかというのも大事だが、  
客層が変わってしまった原因を突き詰めていくと、マーケティングや方向性  
がしっかりしない中で、SNS とかで若者の中で個人的に発生しているものが  
鎌倉のイメージを作り上げているのが、今の鎌倉のイメージを作り上げてし  
まっている要因だと思う。それをこういった会議で方向性をしっかりつける  
ことで、SNS やブランディングでこういった客層を獲得したいのかという理  
想像を踏まえたマーケティングをすることが、いまの観光客が少なくなっ  
ていく時期に一番できること、また鎌倉をよくしていくことに繋がっていく  
のではないかと感じています。今この時期がチャンスじゃないかと実感して  
います。サービス業は補助も出なかったのが、かなり苦しい局面もあったが、  
自分たちの持っているものから、どういう風にお客さんを獲得するか考  
えるいい時間でもあった。それをもっと町ぐるみで鎌倉で発信していける  
ものを、凝縮してこれ

---

---

を商品にしていこうというものをいまこそ作るべきじゃないか。それが今までのオーバーツーリズムだったりマナーの問題の解決の方向性にもつながっていくのではか、という風に改めて感じています。今この時期だからこそ、こういった会議で、優先順位を決めてということを改めて見直して、この意識で進めていくことが意義のあることだと思っています。

---

委員長       ここまででいったん振り返ってみますと、時系列で短期と中期と長期となるとと思いますが、喫緊の現状にどう対処していくのかというところを各委員からいただきました。まずは観光を進める必要があるだろう、また、観光客を取られ過ぎてはいけない、そのためには Go to Travel 事業やマイクロツーリズムなどを活用して増えたら必要なくなると思う必要があると思いますということ。

この状況が長引くだろうという前提にすると、ウィズコロナということがこれからの鎌倉の観光の中で必須だろうということ。まずは、安心して鎌倉の観光に行けるということ、観光客を受け入れられるということですね。究極的には医療体制まで行ってしまおうと思いますが。また、鎌倉では市民をどう守るかという視点も持って両面から、ウィズコロナを考えなければならぬ。それから、持続的にという観点では、どんな鎌倉のイメージで行くかということは、修学旅行も共通になってくると思う。災害の後は教育旅行が一番遅いのでその状況でどう具体的にかかわっていくのか、どんな鎌倉をどう伝えていくのかという大きな体制づくりが必要となるという意見でした。

また、DMO というのはその役割を果たさないといけないというのと、観光というのは不急かもしれないが不要ではないという前提で考えていかなければならない。

委員から宿泊のキャパシティどのくらいありますかという質問がありましたが、今までのまとめと質問について事務局から返答をお願いします。

---

事務局       まず、キャパシティの件ご返答させていただきますが、今数字出てこない  
ので、議事終了後にお伝えしたいと思います。

---

委員       今のここまでのまとめと、会議を DMO とともに会議の頻度についても、進  
め方などもありましたので、お願いします。

---

事務局       会議の進め方については、昨年度のように個別の会議をやった方が良いと  
いうことでしょうか。

---

委員       形式は問わないと思っています。渦中における知恵を集めようという趣旨  
で、今日のような WEB 会議があったらよいなと思います。

---

委員長       さきほどおっしゃっていたのは、この委員のメンバーだけでなく、いろ  
んな各種業界にいらっしゃる方という話でした。

---

委員       ここで会議することも大切ですが、この会議が何のためにあるかという

---

	この状況を打破すること、そして鎌倉の観光を在りたい姿に近づけることだ と思うので、そこには実際に動いている方が知恵を持ち寄って、実際に企画 などを持ってきてもらおう。それを広くみんな広めていこうという。ここには 観光協会もいますし、スピーディに進める形がいいのではないかと思います。
委員	鎌倉の観光のパンフレットを見ますと、いろいろな動きがあるようです が、それがまとまって見える状態にはないかなと思います。
委員	私は直接観光業界の中にいるわけではないので、情報をいただいている立 場として考えていまして、実際にお会いしてとなるとスケジュール調整も難 しいので、WEB 会議のような形も含めて柔軟にやれたらよいかと思います。
委員	今のお話を聞いて項目も絞るとい話もありましたが、このアクションプ ランを立てていただいている中で、どのプランについて、今回どこまで話し ましょうという形で進めたほうが、より効率的だし、より深い意見を聞ける と思う。そうやって意見をまとめていくことがアクションプランに繋がって いく。アクションするための鎌倉の在り方をどう作っていくか大枠を決めて からのほうが第3期を進められるのではないのでしょうか。
委員長	項目ごとに見ていくとアクションプランの主体ははっきりしているので、 そういった方々を中心に話し合いを進めていく中で何かあればと思います。 これは委員会の中でやるか、もしくは市の中ですでに動いている組織があっ てそこで我々が入らせていただくとかやり方はあるかと思いますが、事務局 から今のご意見から何かありますでしょうか。
委員	すみません先に補足させてください。7月にマイクロツーリズムについ て、テストケースとして動いてしまっているものがあり、普段は見せてもら えないお寺にこの時期だけ開放してもらえたり、ゼロベースでことを動かす ことで、今の時期だからこそ構築できる鎌倉らしい街づくりができると思 いましたので、ご報告させていただきました。
委員長	もうすでに具体的なアクションがあるということですね。基本計画、実施 計画、アクションプランというのは結構長い期間でのどうしますかというも のになるので、今日の明日で動こうというのはなじまないというのはあるか と思います。ただ、今こう言う考えで動いているというのをお示しするとい うのは出来るかと思います。
事務局	皆さんに頂いた意見の中で、会議の回数などをいただいたところですが、 オンラインでしたり、やり方について、回数を増やすなど、どういった形で できるかということを探しながらそういう作業を設けていきたいと思 います。

---

マイクロツーリズムについてですが、我々も市内でいくつかそういった取り組みを行っているところがあるというのは把握しているところで、そういった取り組みを注視しながら今後どうやって取り組んで行くかについて、皆様とお話しながら進めていければと思います。

また修学旅行の話とインバウンド事業については、先に手を付けるべきではという話もありましたが、我々も重点施策の中にも出てきているところで、いくつかコロナ禍のあとでと出しているところではあって、その中でも今できることについては取り組んでいきますとしており、マーケティングは先に進むべきという話もありますので、今できることは取り組んで行くというつもりでいることはお伝えさせていただきます。

---

委員長 先ほどの「新しい風景」というのがすごくいい言葉ですね。その中でもインバウンドと修学旅行の在り方の中で、鎌倉はこうだというイメージができるのが一番望ましいだろうと思います。これからはリスクマネジメントが出来る街に人が来るという構造が大いにありうることだと思うので、これまでの観光の在り方では出てこなかった新しい要素だと思います。いろいろな自治体がガイドラインを作っていたりして、鎌倉はこうやっているから大丈夫ですと言えるものを提供しつつ、鎌倉のマーケティングに入っていくのが良いかもしれないですね。

---

委員 いま修学旅行についてお話がありましたが、私の企業の中で、神奈川県の小中学校の方で外に出ていけないということがあり、宿泊ではなく日帰りにするなど模索しています。修学旅行全体で言うと2年3年先の検討もしていますが、直近ですでもう困っているところがあります。いまやり取りしている方では従来の修学旅行は旅行会社に丸投げして成り立っていた部分があるが、鎌倉は多様なコンテンツを持っている、それを鎌倉市の中で整理して、提案できるそういうものをマーケティングとしてやっていったらよいと思います。

---

委員 一般の方々にプロモーションを仕掛ける場合、ターゲットを不特定多数と設定して広い層に働きかけを展開することになりますが、修学旅行はアプローチ先を学校長あるいは担当教諭に的を絞ることができます。海外への修学旅行の場合は、学校が行きたい旅行内容や仕向け地を決めて、何社か旅行会社さんに見積りを依頼し、決定するプロセスが一般的です。国内の修学旅行もそうした教育的な意味合いを重要視する流れが強まり、学校が主体的に計画していく傾向が強まるでしょう。鎌倉市から全国の学校に直接アプローチしていくことが有効かと思います。そして、鎌倉はほかのところではできないこういった学習内容・体験・交流ができる、という提案を作っていくのが肝要だと思います。これはご指摘いただいた今年困っているということへの

---

	<p>答えではないですが、将来を見据えてこんな活動をしていったほうが良いという提案です。</p>
委員長	<p>鎌倉は長いこと観光プロモーションをしてなかったので、うまく取り組むべき例かもしれません。</p>
委員	<p>いまいろんな業種がウィズコロナのガイドラインを出している。鎌倉はこういった対応でウィズコロナに対応しますというガイドラインを作って、学校にアプローチしていったらよいと思います。</p>
委員長	<p>ウィズコロナを鎌倉がどのように受け入れていくか、ある程度ガイドラインを示していくのが一つの方法かもしれません。市民向けと観光事業者向けと外の観光事業者向けといろいろな方向が必要かと。</p> <p>そうしましたら、議題の2に関していかがでしょうか。特にご意見がなければ一旦事務局に戻して次の議題に行きたいと思います。いまいろいろご意見をいただきましたがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>御質疑ありがとうございます。いま種々いただきましたご意見を元に進めてまいりたいと思います。この内容については、これでよろしいということで、皆様ご確認いただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>特に直さなければいけないという修正点はなかったと思いますが、いろいろやっていくうえで、ご意見をいただいている。また、推進委員会の進め方とか取り組むべきことについてご意見をいただいたと思う。アクションプランそのものにはご異議はないと判断してよろしいでしょうか。</p> <p>はい、では続きまして議題3第3期観光基本計画の指標について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それではお手元資料2の1ページ目を御覧ください。こちらは3月に委員の皆様にご意見照会をさせていただきました、第3期観光基本計画策定時にデータが不足していたため未設定となっていた指標の目標値を新たに設定したものです。</p> <p>こちらにつきましては、委員より滞在時間についてご意見を頂いたことから、分かりやすくするため、補足の資料を添付し、説明を補足しております。4ページを御覧ください。</p> <p>こちらは市が年4回行っている入り込み観光客数調査において、社寺等で行ったアンケートにおいて鎌倉を訪れた時間と離れる予定時刻を訪ねたものです。こちら資料が白黒のため、少しわかりにくいですが、色の濃い部分が比較的数値が大きいまたは小さいものを表しています。</p> <p>この表では左側ほど帰りが早い時間帯であることを示し、上の方に行くほど早い時間帯に鎌倉を訪れていることを示しています。</p> <p>表の中央の一番色が濃い部分を見ていただくと、12時に鎌倉を訪れ、1</p>

---

7時までに帰る方が76人ということがわかります。

全体的に見ていただくと、おおよそ8割の方がお昼ごろまでに鎌倉を訪れ、6割の方は17時までに帰っているということが分かります。

また、逆に13時以降鎌倉を訪れる方や18時以降まで滞在する方はかなり少ないということも改めてよくわかります。

鎌倉市第3期観光基本計画では観光客の分散化を大きな一つの取り組みとして掲げており、時間的、場所的、時期的な観光客の分散化のうち、時間的分散化として、早朝の鎌倉と夜の鎌倉について、その魅力を発信して増やしていくこととしています。

資料2の5ページを御覧ください。こちらは平成28年度に実施したWEBアンケートですが、一都三県で鎌倉を訪れた経験がある方がなぜ鎌倉を訪れたのか、という質問に対し、鎌倉の最も特徴的な観光資源である歴史的な風景の次に、手軽に旅行気分が味わえるという項目が多数選ばれています。

このことから気軽に訪れる客層を中心としつつも、早朝の鎌倉や夜の鎌倉に魅力を感じていただける客層を増やしていくことを目標として、現在の中心層である5時間滞在の観光客と今後増やして行くことを目標とする6時間滞在の観光客の中間値である5.5時間が鎌倉の目指す観光のあり方の目標値であるとして設定を行っています。

その他の指標については、概ね向上させていくということで、指標を設定しております。

また、1ページ目の最下段にあります、観光の担い手の満足度については、6ページ目の最後に記載しておりますが、今年度観光協会に加盟している団体にアンケートを依頼し、その数値をもとに来年度以降設定を行っていく予定としています。

---

委員長 今のこの資料2に関して、今まで埋まっていなかった指標の部分に数字が入ったということですが、いかがでしょうか。

委員 観光客数は今のままで良しとする指標ですね、そして増やしていくところは消費額と宿泊数。ホームページは鎌倉を魅力的訪問地と打ち出して、来訪者数が増えていくとビジット数が増えていく訳ですから、あまり評価を行う際の基準にはならないと考えています。そうすると、訪問者数を増やさないので、消費額を増やし、宿泊数を増やそうとなると、根本的に客層を変えるという作業が必要となる。これは先ほどのアクションプランの考え方とも関わりを持っていく訳ですが、将来のレジャー市場のあり方の予測を見据えたうえで、客層をどうやって変えていくかという発想に基づいた検討が必要だと強く思いました。

全体の指標からはそう感じたが、鎌倉の選択理由に注目してみると、現在

---

---

鎌倉に来ている人たちは若者が圧倒的に多く来ているように見えるにも関わらず、資料2の5ページのデータだとサンプル数が600の内20歳以下が30人、30歳以下が42人ということで、この調査結果はどちらかというと年配の方の志向が出ている。若い人たちにとって、全体の中で際立って評価されているのが、「気分が転換できるから」。一番大きな数値だ。こうしたモチベーションをどういう風にマーケティングに反映させていくのか、あるいは20歳代のお金を落とさない人はあまり重きを置いて考えないで、30、40、50、60代に注力してマーケティングを展開していくのか、ということをおの中から読み取っていかなければいけないかなと思いました。歴史的な風景を楽しみたいという、どこまでが歴史的な風景なのかというのを、我々が明確にマーケットに提供しなければならない。鶴岡八幡宮だけで終わってしまわないように展開していかなければならない。

---

委員長 確かに20代は気分転換ですが、30代になると気軽に旅行気分というのが多くなりますね。

---

委員 この資料を見るといまのアクションプランに繋がっているというのが分かると思いました。宿泊してみたかったという数値もある程度の年代の方のデータを取っていても、全体的に低いという状態。鎌倉の名産品、地産地消の魅力にフォーカスできていないというのが、この数値に出ていると思う。いま現状小町通では気軽に気分転換というのが若者の流行だと思う。お土産を買ったりお寺に行くという目的をもってではなく、という形態の若者が多い。

年々SNS やメディアの露出などで広まっているのは本来の鎌倉に行く目的ではなく、食べ物や写真を目的にした人が増えている。明確にターゲット層を絞ることが大事だと思う。

---

委員 現状は平成30年度の数値を基にしていると思いますが、令和元年度は台風が、令和2年度はコロナの影響もあり、今後の動向が全く見通せない状況で、令和3年度も新しい観光の中でどうなるかというのは分からない。今は今で検討するというのは必要ですが、今後随時状況を見定めながら回していかなければならないかと思います。

---

委員長 こういったアンケート自体も継続的に取りながら、把握していく必要があるのかなと思います。

---

委員 すみませんが、所要のため途中で退席させていただきます。

鎌倉駅の駅長が以前おっしゃっていたのが、10時40分台の湘南新宿ラインが一番混むということで、ちょうど11時頃に多くの方が来ていたとのこと。たしかにこれが一番多いというアンケート結果というのは信ぴょう性があるかなと思いました。

---

委員 アンケートが去年のことということで、2か月に一度やってもよいかと思う。それからターゲットをしっかりと行って、学校や旅行者に対して行う。コンテンツの充実を行い、プレゼンテーションをしっかりとできればいいと思う。

鎌倉はコンテンツが多すぎて分からなくなるが、ピンポイントで実施すべき。

この主体がどこになるのか、市としてそれを全部やってくださいというのは無理だと思うので、観光協会が担うとか、どこにお願いするのか落とし込んで行かないとスピーディにできないかと思います。我々は意見できる立場にあると思うので、この場で合意形成を図っていききたいと思う。

---

委員長 先ほどのアクションプランのこととつながって、ターゲットを絞って鎌倉をプレゼンするという話ですね。主体の話はあとで事務局とご相談しながら、関係団体とお話ししてということだと思いますが、必要性を強く感じているということはよくわかりました。ほかにご意見はありますか。

よろしければ先ほど委員から御指摘いただいた、コロナの中で対策ということでおっしゃっていただいたところですが、資料2についてはご承認いただいて、これから先変わっていく状況という把握を続けていく必要というご提案をいただいたことで、これをどうしていくかというのは事務局と協議して進めていけたらと思います。一旦事務局にお戻ししてよろしいでしょうか。

---

委員 アクションプランの方で一つよろしいでしょうか。いまのDMOの進捗状況の着地のイメージが見えていたら教えていただきたい。

---

委員長 議題が戻ってしまうので、いまお返ししていただくか、議題終了後に返していただくか、どうでしょうか。状況が聞ければということですが。

少しお時間がかかりそうなので、先に議題に進めさせていただいて、あとで合わせてご回答いただきたいと思います。

それではその他で上がっている議題について先にお願いいたします。

---

事務局 それでは事務局から少々お時間を頂いてご説明させていただきます。2つございまして、まずお手元ピンクの装丁の鎌倉市の観光事情を御覧ください。

こちらは平成31年度、令和元年度の各種指標と取組事項をまとめたものですので、ご一読いただければと思います。

中には入込観光客数や観光消費額など、例えば21ページに観光消費額が記載しておりまして、宿泊客、日帰り客の消費額を記載してございます。消費額の算出方法についてはその下に記載しています。

平成30年度に比べて平成31年度は上がっている状況ではありますが、コ

---

---

ロナ禍においてどこまでというところがございます。

なお、本委員会の本旨である観光施策の進行管理として今年度中に昨年度から今年にかけての取組状況をご報告するところではございますが、昨今のコロナ禍により継続取組事項以外ではご報告できる事項が非常に少ないということもあり、この観光事情によりご報告に変えさせていただきます。

2つ目がお手元の資料で A4 1枚両面の資料で大河ドラマ「鎌倉殿の13人」推進協議会概要図を御覧ください。

こちらの大河ドラマが2022年の放映ということで、「鎌倉殿の13人」とうことで鎌倉を舞台としたドラマが放映されるということで、対応する協議会を立ち上げるということの概要図をお示ししています。

大河ドラマは以前にも鎌倉で舞台となって放映されたことがありまして、その時の課題であったものについて取り組むべきものを協議会で取り組んで行こうとしています。この中では協議会の中にいくつか部会をつくり、下段のとおり、IT・交通部会では、大河ドラマ放映により一定の観光客が訪れ、交通問題に取り組むものとしています。現段階ではこのような方向性で動いているということまで、皆様にご承知おきいただければと思います。

---

委員長	これについてはこの委員会でやらなければいけないということではなく、その他の事業と連携してることがあるということで、参考にさせていただくということでしょうか。
-----	--

---

事務局	そのとおりです。
-----	----------

---

委員長	ありがとうございます。この観光事情についてはすでに配布されている資料ということですね。
-----	---

---

事務局	そのとおりです。ホームページについてはこれからアップする予定です。
-----	-----------------------------------

---

委員	観光事情を見させていただいて、予算が気になり各項目を見ると、一番大きいのが海水浴場の運営費です。7月8月に海に来る人がその時期の訪問者数の半分だとしても、バランスが非常に悪いと思う。一年間の訪問者の6%くらいが海で遊ぶという中で、30数%くらいの予算がこの分野に使われているというのが残念に思う。どういう事業をやっているかというのが書いてあるが、費用対効果ではこの予算を他のマーケティング予算に回せたら良いのと思う。
----	--

もう一つ大河ドラマについてはどうやってこなしていくかというのは落とし込んであるが、これをどういう風に観光需要の促進に結びつけていくか、例えば、これを修学旅行に生かしてプロモーション活動を展開していくというようなステップの検討が必要かと思いました。

---

委員長	海水浴場の予算の比率についてなにか事務局からございますか。
-----	-------------------------------

---

事務局	海水浴場の予算が大きいということですが、海水浴場はどうしても安全対
-----	-----------------------------------

---

	<p>策などの費用がかさむものであり、海水浴場に力が入っているとか、他の事業は力が入っていないというものではありません。今後事業を進めていくうえで必要な予算があれば都度計上していくようなことになると思います。</p> <p>NHK 大河ドラマについては、これから協議会を立ち上げて検討を進めていくところですので、委員のご意見を踏まえて進めていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>海水浴場は市が設置・責任者になるということで、安全管理にお金がかかるということですね。</p>
委員	<p>鎌倉殿の 13 人の協議会についてお聞きしたいのですが、これは鎌倉市の観光課がイニシアティブをとって進めるということでしょうか。この構成者はどのように決まっていくのかなというのが気になります。八幡宮の文華館をドラマ館にということになっていますが、ドラマの内容は明らかになっていないのですが、北条義時公が題材ということで、覚園寺と宝戒寺は外しては話が進まないと思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>今お示ししているのはまだ案の段階であり、メンバーについても検討中ですが、事務局については観光課の中に大河・オーバーツーリズム担当を設置しており、ここで協議会を作り運営していく予定です。実際に協議会を作る段階になりましたらば、覚園寺様や宝戒寺様にもお話をしていかなければいけないと認識しております。</p>
委員長	<p>具体的にはいつ頃立ち上がるのでしょうか。</p>
事務局	<p>いま来年の 4 月と目指して進めていくところです。</p>
委員	<p>すごく大きい人数で集まると間に合うのかなと思いました。鎌倉殿の 13 人なので 13 人くらいでやったらどうかと思います。大きな組織だと放映までに間に合うのかなと思いました。</p>
委員	<p>最後のところに 2021 年の 10 月から 12 月に何か事が動くということですが、これはお金が動くということでしょうか。</p> <p>さっきもお話がありましたが、いつこれが皆さんにオープンになって事業者はいつから動き出せる体制が組めるのでしょうか。</p>
事務局	<p>この協議会は時間がないのではとご指摘がありましたが、我々も急いで進めたいと思っております。</p>
委員	<p>急ぐとなると私たちの考えないといけないところだと思うのですが、オーバーツーリズムだとか導線だとか考えないといけないとなって、ガイドラインを決めて、枠組みを作ってやらないと分散化はされるかもしれないが、大枠はしっかりしないということが続いてしまうと思うので、そこはぶれないでやっていく必要があると思いました。</p>
委員	<p>鎌倉殿の 13 人についてですが、アクションプランの 15 ページに経済効果を書いてあり、西郷どんでは 258 億で、平均でも 100 億円を上回ると書いて</p>

---

あり、鎌倉の経済効果は控えめになると書いてあります。鎌倉殿の13人は御客を呼びたいのか、そうではないのか見えないところがあります。大河ドラマ・オーバーツーリズム担当という名称が先ほど申し上げた通り、ブレーキを踏みつつ、アクセルを踏むような名称になっている。この経済効果について、今後押さえがちにみていくのがいいのかどうか、お尋ねしたい。また、実施主体に神奈川県と書いてあるが、庁内でまったく検討できていない状況なので、実施主体神奈川県とはどういう趣旨で書いてあるのかお尋ねしたい。また、観光事情の27ページに事業概要で、北条5代観光推進協議会とありますが、もともと大河ドラマを北条5代でという動きがあったと思いますが、このあたりどうなっているのかお聞きしたい。

---

委員長           アクションプラン15ページからの神奈川県が入っているというところ、北条5代についてですね、併せて先ほどの意見についてもお願いします。

---

事務局           大河ドラマに対する市の考え方というところですが、もともとおっしゃられていた大河・オーバーツーリズム担当というところですが、先ほど資料説明でお伝えしておりましたが、今までの経験上大河ドラマが放映されると、それなりに観光客が増えるというところから、それに伴い発生する課題にどう取り組んで行くかというところが、誘導とかを部会で対策していきたい。併せて、コロナの状況の中でもいい起爆剤であるとは考えており、観光消費につながるというところも併せて考えていかなければいけないと思っております。

また、北条5代につきましては、従前から鎌倉の中の玉縄城址が北条5代に関わる場所として、協議会に参画しているところで、北条5代を大河ドラマにというところはございますが、今回は別物として大河ドラマに選ばれたというところです。

---

事務局           (大河ドラマを)神奈川県と実施したいというところにつきまして、県の企画部局とお話をさせていただいているところでございまして、神奈川県の取り組みとしてお願いしたいとしてお願いしているのが、神奈川県以外の伊豆の国市であるとか、千葉県であるとかこのようなところについて、大河ドラマについて一緒に取り組んで行きたいという話をいただいております。このような部分については神奈川県に間に入れていただけて担っていただきたいをお願いをしている。また、併せて神奈川県にお願いしたいところが、大河ドラマの運営をしている岐阜県などではドラマ館に対する補助をいただいているとか、運営費に補助をいただいているところがございますので、このあたりのところを含めてご検討いただきたいと思いますと考えております。

---

委員           神奈川県との今後の取り組みにつきましては改めて協議させていただきたいと思っております。経済効果については、あまり求めないという理解でよろし

---

	いでしょうか。
事務局	この部分についてはコロナの状況でどこまで膨らんでいくかについてがございませう。経済効果については関連の部署にご依頼をさせていただいておりますところで、控えめというよりは難しいというところであういった書き方になっているところであう。
委員	あういった取り組みをやるうえでは経済効果は対外的に説明を求められると思ひますので、そのあたりの算定の仕方とか市としてあういったスタンスで取り組むか一定の評価が必要だと思ひるので、そこをどう見せていくかは検討したほうが良いかと思ひう。
委員長	恐らくあういったことを考えた時に、先ほどから出ていたウィズコロナの中で鎌倉の観光をどうやって作っていくかあうことを考えながら、だから大丈夫なので経済効果をかけるあう流れが望ましいのではないかと思ひます。
委員	今のお話に関連する事ですが、観光課と商工課は隣同士で連携してやっているとと思ひうが、観光課は収支に関することはあまり関知しないあうイメージがある。商工課はあうろいろなプロモーションうったり鎌倉の経済を発展していくイメージがあるのですが、コロナの時代これはセットであり、切っても切り離せないと思ひます。あういうところで、先ほどのご意見のあうにどっちのスタンスなのかあうところをご説明していただけるとありがたい。
事務局	先ほどお答えした通り、現在のコロナ禍において、非常に市内経済が冷え込んでいる、あういう状況にあうて、たまたま2022年に鎌倉を舞台に大河ドラマが放映される。あういう絶好の機会であう、アフターコロナの期待ができる、V字回復が期待できるあうところで、考えている。あういった意味では大河ドラマを活用して事業者のあうさん市内経済全体の回復にあたりたいと考えている。一方でオーバーツーリズムは長年の課題であり、その点を十分配慮し、対策していかなければいけないので、もれなく対策をうっていききたいあうところであう。
委員	これはアクションプラン素案あういうことで、いまのご意見を書き込みあるいは修正するあういう理解であういであうしょうか。15ページの姿勢であうとか。
事務局	アクションプランの15ページの大河ドラマの記載について、修正するのにかあういうご質問がありまして、事務局としては、今いくついただいたご意見であう修正の必要があれば修正してとは考えておりますが、いまいただいた中では修正する必要はないかあうと考えております。
委員長	先ほど控えめになるあういう表現がそのままでいいのかあういうご質問でしたが、これについてはそのままあういうことであうしょうか。
事務局	現時点ではコロナの影響のあるため、どこまであういう評価が難しいあうところ

	であり、現時点では記載はこのままでと考えております。
委員長	これをコロナの中での光としたいというご意見がありましたので、そういうところに進められるようにしたいということでしたが、ここに書いてある控えめという表現は、鎌倉は日帰り観光が多いので他のところと違って宿泊型で増えていくということはなかなかかなりづらいという意味だと思います。 それでは議題が終了しましたので、進行を事務局へお返しします。先ほどDMOの現状の質問があったと思うので、それに対する回答で締めくくっていただければと思います。
事務局	まず、DMOにつきましては、重点施策に出しているところではございますが、インバウンド向けというところでは、まだ枠組みなどの具体の形に落ちてはいないところです。また、宿泊のキャパシティということですが、市内では年間で50万人くらいの宿泊客数が泊まれるというデータになっています。
委員長	キャパシティというのはベッド数ではなくて、宿泊者数が出ているということですね。
事務局	そのとおりです。
事務局	どうもありがとうございました。 最後に今後の委員会についてですが、先程ご説明申し上げたとおり、本来であれば第2回の委員会でご報告申し上げるところではございますが、昨今の情勢で多くの事業が凍結状態となっていることから、今年度の報告については来年にまとめさせていただきます。そのため、次回会議につきましては、今後のコロナ情勢にもよりますが、今年度末の3月中旬に、令和2年度までのご報告と重点事業の進捗報告を行わせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。 なお、先ほど委員からご意見がありましたとおり、個別の施策についてはまた皆様にご連絡して開催させていただきたいと思っております。 以上をもちまして、本日の観光基本計画推進委員会を閉会させていただきます。 皆様には、長時間にわたり活発なご意見をいただき、ありがとうございました。 また、初めてのオンライン会議ということもあり、不慣れなところもございましたが、円滑な会議にご協力いただきまして、ありがとうございました。

以上